

公益財団法人みちのく未来基金
代表理事および業務執行理事業務報告
 (報告対象期間:2012年10月～2013年9月)

【奨学金給付事業関連】**1. 奨学金の給付状況**

第1期生および第2期生に対する奨学金の給付を実施いたしました。

①給付人数

	在籍者			国公立大学		私立大学		短大・専門学校	
	合計	1期生	2期生	1期生	2期生	1期生	2期生	1期生	2期生
合計	210	89	121	11	14	41	57	37	50
岩手県	65	30	35	7	8	16	17	7	10
宮城県	128	52	76	2	6	23	34	27	36
福島県	12	6	6	1	0	2	4	3	2
3県以外	5	1	4	1	0	0	2	0	2

※2013年9月末現在

第1期生 人数

2013年9月末現在、奨学金給付を行っている人数は89名。給付開始時点では96名であったが、3名が2013年3月で卒業、4名が自主退学し、現在は89名となった。

第2期生 人数

2013年9月末現在、奨学金給付を行っている人数は121名。給付開始時点では122名であったが、3名が自主退学し、2名が新規認定、現在は121名となった。

②奨学金給付金額

第1期生及び第2期生への現時点の奨学金給付実績および2014年3月までの給付予定金額は下記の通りとなります。

・第1期生への給付実績(2013.9月末まで)	8,125万円
・第1期生への2年次給付残支払額(2013.10月～2014.3月まで)	385万円
第1期生合計	8,510万円
・第2期生への給付実績(2013.9月末まで)	10,180万円
・第2期生への入学年度給付残支払額(2013.10月～2014.3月まで)	1,100万円
第2期生合計	11,280万円

第1期生と第2期生の合計は 19,790万円 となります。

第1期生の2年次の奨学金給付額は約8,500万円に、第2期生の入学年度奨学金給付額(入学金および授業料等)の総額は約11,300万円程度となる見込みです。本年度に関しては震災以降継続して

被災者学費減免制度を採用している学校も多数あり、第 2 期生入学年度で見ると実際の必要金額約 16,700 万円に対し、約 33%が学費減免措置となっています。

③奨学金給付業務の効率化対応について

2 年後に約 350 人規模のみちのく生在籍数が見込まれ、対象者の奨学金給付業務の効率化策のひとつとして、下記対応を開始致しました。

イ) 可能な学校については全て、学費振込を「前期」「後期」の分割支払型から年間一括支払いと致しました。

ロ) 奨学金振込用銀行口座を「77 銀行泉支店」から「宮城第一信用金庫八乙女支店」へ変更致しました。これまでの窓口での振込対応から、信用金庫側による訪問および書類引取り方式に変更となった事により業務効率化されました。

2. 第 3 期生の募集状況

高校 3 年生の進路決定時期が夏休みであることから、夏休みまでに給付内定を出すために、4 月より第 3 期生の募集を開始致しました。

①「みちのく未来基金」第3期生奨学金給付希望者

	申請者数	国公立 大学	私立 大学	短大・ 専門学校	志望校 未定
合計	109	37	32	37	3
岩手県	43	22	7	12	2
宮城県	52	9	21	21	1
福島県	10	4	3	3	0
3 県以外	4	2	1	1	0
年度内割合	100.0%	33.9%	29.4%	33.9%	2.8%

※上記は 9 月末時点での奨学金給付希望者で、合格後に奨学金が給付されます。

基金の調査では、2014 年春高校卒業予定の震災遺児は 132 名。うち約 80%にあたる 99 名及び、浪人中で進学を目指している 10 名と併せ計 109 名が、9 月末現在進学(奨学金給付)を希望しています。第 3 期の奨学金の必要金額は第 3 期生の入学年度分だけでも約 128 百万円が予定されています。

3. 岩手、宮城、福島 3 県以外での対象者の確認について

厚生労働省の資料から、震災遺児・孤児の 2012 年 9 月時点の居住地状況について、基金が直接高校訪問等実施の岩手・宮城・福島 3 県以外の都道府県に約 90 人存在する事が判明致しました。

基金でも、該当各県の行政窓口、教育委員会、児童相談所、里親会、中学校等さまざまな機関へのアプローチを開始致しました。現在のところ 28 名の所在が明らかとなっております。

4. 選考委員会開催

内閣府の公益法人(助成型)の認可要件として、奨学生の認定について公平性・公正性の担保という観点から選考委員会の設置が求められております。これに基づき以下の様に選考委員会を開催いたしました。

①「第3期生選考委員会」

2013年8月25日(日) 11:30~12:30 仙台メトロポリタンホテル桃李

・出席委員

杉 昭重 福島県教育委員会 教育長 ・ 元福島県立安積黎明高等学校 校長
庄司 恒一 元宮城県立仙台第二高等学校 校長 ・ 元宮城県高等学校長協会 会長
高橋 和雄 元岩手県立盛岡第一高等学校 校長 ・ 元岩手県高等学校長協会 会長

・事務局

長沼孝義、河崎保徳、竹中俊之、安井正紀

第3期奨学対象者の確認(2014年4月より奨学金給付開始者)について、東日本大震災の遺児孤児であること及び進学先についての確認および承認を委員の方々に諮り承認頂きました。

5. 第2期生の集いの実施

3月22日~23日に『みちのく未来基金【第2期生の集い】』を実施致しました。今回の集いのテーマは【わ(和・輪・話)】。みちのく生同士の【わ】、サポーターの皆様との【わ】を作り、深めていく事が東北の未来の力になるとの思いで開催致しました。国公立の後期合格発表のすぐ後だったことや、進学先へ引越し準備等子ども達もとても忙しい中、奨学生122名のうち75名が参加してくれました。

75名もの第2期生が参加するこの集いをどう進めていくかは事務局の課題でしたが、第1期生21名が自主的にスタッフとして参加してくれました。集いのさまざまな場面で第2期生のお兄さん・お姉さん役として活躍をしてくれ、第1期生の力なしではこの集いはなしえなかったと思われます。1日目はコミュニケーション作りのワークを実施、2日目はこれから1人暮らしをする子どもの事を考えた、「簡単ヘルシーレシピ」をボランティア栄養士スタッフからレクチャー。子ども達手作りの料理をみんなでおいしくいただきました。そして最後の時間を『門出の会』として、それぞれが立てた目標を子ども達一人一人が発表。又専門学校での課程を終え、春から社会に羽ばたく3名の第1期生を対象とした、「旅立ちの会」を実施致しました。

来年は3月14日~15日に第3期生の集い及び卒業する第1期生と第2期生の「旅立ちの会」を実施いたします。

6. みちのく未来基金SNSの活用

2012年3月より、みちのく生同士の交流促進を目的に専用のソーシャルネットワークサイトを開設致しましたが、奨学生および基金関係者以外にはクローズドな空間を構築することで、安心して交流できる環境を整えています。基金からの事務連絡やみちのく生同士の交流のツールとして今後も機能の拡充を図りながら継続活用していきます。

7. 夏の交流イベントの実施

奨学生同士の定期的な交流促進のため2013年8月4日に仙台と東京の2会場にて夏の交流イベントとしてBBQ大会を実施し、第1期生および第2期生計22名が参加致しました。

企画立案段階から6名の第1期生と1名の第2期生が自主的にスタッフとして参加してくれたおかげで、3月の「第2期生の集い」以降、奨学生同士や基金スタッフとの再会と交流を深める場としてスムーズなイベント運営ができました。

8. ミチカフェの実施

9月7日に仙台にてミチカフェを開催いたしました。東京・仙台から6名のみちのく生が参加してくれました。ゲストスピーカーとしてロート製薬株式会社、カルビー株式会社から各1名お手伝いいただきました。若手社会人の生の声を聞くことが出来、みちのく生にとっては良い座談会であったと思います。

【法人運営関連】

9. 寄附金受入状況

寄附金内訳(2013年9月30日現在)

	金額(円)	金額比率	件数	件数比率	人数・法人等数	人数・法人等比率
個人	200,407,521	21.6%	6,767	87.8%	1,962	81.6%
法人	673,930,126	72.6%	762	9.9%	316	13.2%
団体	54,231,511	5.8%	176	2.3%	125	5.2%
合計	928,569,158	100.0%	7,705	100.0%	2,403	100.0%

2013年9月30日まで通期で約9.3億円の寄附が集まっている状況であり、発起3社を除いても約6.9億円のご寄附を賜ったこととなります。寄附者の皆様の高い志に感謝するとともに、このご寄附を子供たちのために大切に使うまいりたいと思います。

10. 各種規程内容の見直し対応

基金発足と併せ、制定した既存の各種規程に関して、これまでの基金運営と奨学金給付事業を進めてきた中で、当初想定以外の事例も発生しており各種規程の見直しを実施いたします。

11. 広報活動

①みちのく未来通信 2~5号発刊

寄附者、奨学生等基金関係者に対して、みちのく未来基金の現状をお伝えするみちのく未来通信の発刊を2012年10月(2号)、2013年1月(3号)、2013年4月(4号)、2013年9月(5号)に行いました。

尚、今後も年間3回の発刊を継続致します。

②各種取材・訪問対応

各種企業・団体からの問い合わせや取材に関して、長沼・河崎を中心に対応致しました。

③TV番組取材対応

発起3社広報のご協力をいただき、2013年3月放送カンブリア宮殿「ロート製薬特集」内、及び8月放送の同番組「カゴメ特集」内でみちのく未来基金の取材対応を行いました。東北エリア放送局でも岩手朝日放送、東北放送、宮城テレビ放送からの取材対応を実施致しました。

④第一回日経ソーシャルイニシアチブ大賞へのエントリーを行い東北復興支援部門でファイナリスト団体として選出されました。

12. 第3期事業計画および収支予算の策定

事業年度末までに内閣府に提出する第3期の事業計画および収支予算の策定を行いました。

【基金運営体制】

13. みちのく未来基金の現行運営スタッフ体制について

2013年4月からエバラ食品工業株式会社が特別支援企業となり、1名のスタッフ(竹中 俊之)を派遣いただき現在4社にて運営しております。

又前回の理事会時点より、発起3社定期異動等により下記のメンバーの変更がございました。

①カルビー株式会社より2013年4月から齋藤 雅子が新たにみちのく未来基金に参加しました。

②ロート製薬株式会社の藤田 晋太郎・二瓶 真衣の2名が2013年6月に基金勤務を離れました。

その他、派遣社員(山田 理美)の契約終了に伴い、8月より奨学生数の増加による事務作業量の増加に対応するため、週5日勤務の派遣社員(大内 日花里)の新規採用を行いました。

上記変更に伴い、2013年8月現在のみちのく未来基金のスタッフ構成及び業務担当は以下で運営しております。

【みちのく未来基金事務所】

長沼 孝義(代表理事)：業務執行全体責任者

河崎 保徳(ロート製薬株式会社・業務執行理事)：全体統括

竹中 俊之(エバラ食品工業株式会社)：事務局統括及び奨学金管理：新任

北岡 祐治(カゴメ株式会社)：事務局(内閣府対応・総務経理・各種窓口対応)

安井 正紀(カルビー株式会社)：学校訪問チーム統括及び3県以外エリア担当

西澤 省吾(カルビー株式会社)：事務局(総務経理・寄附金管理・各種窓口対応)

吉田 朋代(ロート製薬株式会社)：福島県全域および宮城県南部エリア担当

齋藤 雅子(カルビー株式会社)：宮城県北部エリア担当：新任

山田 健太郎(カゴメ株式会社)：岩手県全域担当

大内 日花里(派遣社員)：事務局(総務経理事務・週5日勤務)：新規契約

・非常勤

横川 二郎(カゴメ株式会社)：全体統括・広報サポート【東京・仙台】

以上